

心に残る文化財子ども塾～安来市立十神小学校～

1. 活動の概要

7月2日(木)、安来市立十神小学校で「心に残る文化財子ども塾」を開催しました“奈良時代のくらしにふれてみよう～ふるさと安来の歴史と勾玉づくり～”と題し、地域学習と勾玉づくりを中心とした学習活動を行いました。

まず十神小学校のある安来市中心部が古代はどのような地域であったのか、『出雲国風土記』の記載をもとに紹介するとともに、父と娘をめぐる悲しいお話である比売埼(ひめさき)伝承とそれをモチーフにした「月の輪神事」についても説明し、『出雲国風土記』の伝承が現代にも伝えられていることを知ってもらいました。また、出雲においては、ほかの地域とちがひ、玉づくりが古墳時代で終わるのではなく、奈良時代以降も続くことを説明し、奈良時代のくらしの様子について、出雲でみつけた土器の観察を通じて理解してもらいました。そして、古代の玉づくりについて説明したあと、滑石で実際に勾玉をつくってもらいました。この活動を通じ、出雲では玉づくりが特別であったことや勾玉づくりの大変さを実感してもらうことができたのではないかと思います。

2. 活動の様子



「安来の地名の由来ってなんなのだろう？」



「『出雲国風土記』に記された比売埼伝承は「月の輪神事」として今も伝えられている」



「奈良時代の土器を近くで観察してみよう」



「みんなで勾玉をつくってみよう」

3. 子ども塾を終えて

1)児童の皆さんから…

- ・「安来」や「十神」(砥神)という地名が 1300 年前からあったということを知り、その歴史にびっくりしました。
- ・『出雲国風土記』にみえる父と娘の悲しいお話である比売埼伝承とそれに基づく「月の輪神事」について、詳しく知ることができてよかったです。
- ・勾玉づくりを実際に試みて、昔の人の大変さがよくわかりました。
- ・安来のことをもっと調べたり、月の輪神事にかかわる行事にも参加したりしてみたいと思いました。

2)担任の先生から…

- ・土器にふれさせていただきだけでなく、ふるさと安来にまつわる話も資料をもとにいただき、あらためてふるさとへの愛着を深める機会となりました。
- ・勾玉づくりという体験的な学習もでき、充実してよかったです。

3)古代文化センターから…

「安来」は、今から約 1300 年前につくられた古代出雲の地誌である『出雲国風土記』に記され、とても歴史のある地名です。しかも、『出雲国風土記』にはこの地域を舞台とした父と娘の悲しいお話である比売埼伝承がみえ、その比売埼伝承をモチーフにした「月の輪神事」が現在も行われており、『出雲国風土記』とゆかりの深い地域といえます。

現在の島根県東部にあたる出雲では玉づくりが古墳時代だけでなく、奈良時代以降にも行われたことを皆さんに説明したあと、奈良時代の土器を実際にじっくりと観察してもらうことで、地域の歴史を体感できたのではないのでしょうか。

さらに、古代の勾玉について説明したあと、滑石で勾玉づくりをしてもらいました。勾玉の形になるまで削り、なめらかに加工するのはなかなか難しく、勾玉づくりの大変さを実感してもらえたのではないかと思います。

今回の体験活動を通して、安来地域の歴史について、皆さんにより一層興味関心をもってもらえたら嬉しいです。